

災害を学ぶ

- 地域で起きるかもしれない災害を学び、「自分や家族、住んでいる家や学校、まちにどんな被害が発生するか」を考える。
- 地震が発生したときに安全に避難できるよう「避難対策シート」をつくる。

① 学校区内の災害について調べる

先生たちの指示に従って、自分たちの学校区でどんな災害が起こるか、災害が起こったらどんな被害が発生するかを調べる。



③ 地図を使って地域の災害を理解する

地図を使いながら「住んでいる地域がどんな空間なのか」「住んでいる地域で災害が起きたらどんな危険があるか」を、地域の方と一緒に考える。



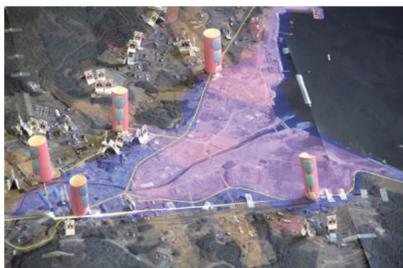
② 避難する場所や道を調べる

災害が起こったとき、安全な避難場所やそこまでの道、避難するときの注意点などについて、地域の方と検討する。



④ 避難シミュレーション

地域の方と一緒に、大きな地図の上で避難場所やそこまでの道を確認しながら、災害が起こったときの安全な避難についてシミュレーションを行う。



11

12

地域発表会

自分たちが作った「防災マップ」を地域の方に発表し、アドバイスをもらう。

① 地域アンケート

地域の方に、自分たちが作った防災マップについてのアンケートを実施する。



③ 地域発表会(授業参観)

地域の方に、学校の体育館などに集ってもらい、完成した防災マップを発表して、その内容を理解してもらい、意見をいただく。



② 地域インタビュー

地域の方に、災害時の体験や安全な避難についてインタビューする。



17

18

防災まちあるき

まちを自分の足で歩き、「避難対策シート」の避難場所がどんな場所か、そこまでの道が本当に安全か、どんな危険があるかを現地を確認する。

① 防災まちあるきのながれ

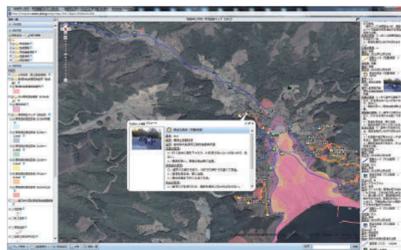
1. グループ別にスタート地点に集合する。
2. 担当(グループ代表、地図担当2名、シート担当2名、写真担当1名程度)を確認する。
3. 防災まちあるきのルートを確認する。
4. みんなでルートを歩く。
5. 地図に示している避難場所までみんなで歩く。
地図担当: 避難場所までの道案内
シート担当: 避難場所が本当に安全か、そこに行くまでの道にあった危険など、みんなの意見を記録。
写真担当: 避難場所や行くまでの道の写真を撮影



13

② スマートフォンやタブレットの利用

防災まちあるきするとき、スマートフォンやタブレットを利用すると、現地の位置を確認したり、写真を撮影してそのままeコママップへ登録することができる。



14

防災マップをつくるときに理解しておいてほしいこと ~津波の恐ろしさ~

1 海の近くにいる場合

大きな地震を感じたら、揺れが収まった後、急いで高台などに避難しましょう。日ごろから万が一に備え、避難場所やそこまでの道を確認しておくことが大事です。



4 波が見えてからはおそい

陸に到達した津波のスピードは、100メートル走世界一の選手より速く、競争してもすぐに追いつかれてしまいます。津波が見えないからまだ安心だとは考えず、ゆれを感じたらすぐに避難しましょう。また、ゆれを感じなくても津波警報などの情報を知ったら、すぐに避難をはじめましょう。



2 地震が来たら、すぐ逃げよう

津波がおそってくるかもしれませんが、一度津波に巻き込まれると、がれき(くだかれた木材や金属など)に挟まれたり、ぶつかったり、ささたりして泳げなくなりおぼれてしまいます。



5 高いところに逃げよう

津波から命を守るために、すぐに近くの安全な高台やビルに避難しましょう。できるだけ海から離れることも大事ですが、土地が高くないと津波におそわれてしまいます。



3 ゆれてから、津波が来るまでの時間は?

津波はジェット機や新幹線のようなスピードで陸に向かって押し寄せてきます。大船渡では、地震発生から14分で一番目の波が到達したといわれています。



また、海のかなたで発生した津波は、時間をかけて到着し大きな被害をもたらす可能性があります。ゆれを感じなくても、テレビやラジオ、防災無線で津波警報などの情報を知ったら、急いで高台に避難しましょう。

6 近くに山がある場合

近くに高台などの避難場所がないときは、海から離れた高い山に登り、できるだけ頂上を目指して安全を確保しましょう。



防災マップを作成する

防災まちあるきの結果を整理して、安全な避難場所とそこに行くまでの道を地図に記した「防災マップ」をつくる。

① 防災マップ作成

「防災まちあるき」でとった写真や記録内容を紙の地図上に整理して、地域の方に意見をいただきながら、紙の防災マップをつくる。

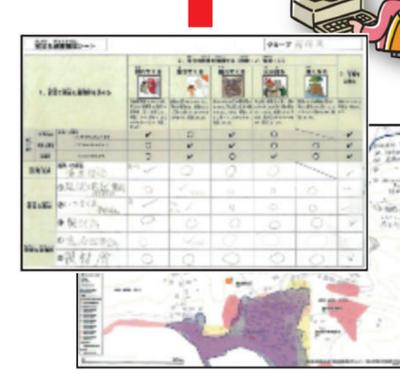


② 防災マップ作成

防災マップの内容を、パソコンの地図(eコママップ)に登録して、「e防災マップ」をつくる。



15



16

津波の恐ろしさを写した映像 ①

「ヘリコプターから撮影した東日本大震災津波」(岩手県警察 提供)



このビデオには、津波がまちの中心部を破壊する様子や、人が逃げられないスピードで川をさかのぼり、堤防を越え、海から離れた地域でも家々を押し流す様子、さらには、大規模な引き波の現象も記録されています。

津波の恐ろしさを写した映像 ②

「大船渡市中心街を襲う津波の映像」(一般社団法人大船渡津波伝承館 提供)



このビデオには、津波で押しつぶされ流される家々の破壊音、大勢の市民の絶望的な叫びや嘆き、市役所の防災行政無線から流される警報と避難を呼びかける音声が空しく鳴り響く様子が取られています。

7 海からはなれて、高いビルにのぼろう

高台や山が遠く離れていたり、津波の到達時間が短くて遠くまで避難できない場合は、近くのビルなどの高いところへ避難しましょう。ビルやマンションに津波避難ビルのマークがついていることもあるので、日ごろから見学しておくことも大事です。



8 川のそばには、絶対に近づかない

津波は川をさかのぼって海から遠く離れた地域まで到達します。川にかかっている橋も破壊するので、橋を渡ることは危険です。また、川の堤防から溢れた津波に巻き込まれ、命を落とす危険性がありますので、川からはできるだけ離れて高いところに避難しましょう。



9 逃げたら、戻らない

津波は時間をあけて何度も何度も襲ってきます。初めの波が小さくても、その後の波の高さが大きくなったり、津波が海に戻る「引き波」が発生します。東日本大震災津波では、せっかく高台に逃げたのに、荷物を取りに、または家族が心配になって自宅に戻ったところを津波に襲われた方がいました。いったん高台などに避難したら、津波警報が解除されるか、津波が完全に収まるまでは、低いところに戻ったり海岸に近づくのはやめましょう。



19

20

21

22